支部だより

ダイジェスト版

全文は「時報オンライン」に掲載しています。

http://www2.chuo-u.ac.jp/gakuinkai/member1/shibudayori/index.html

山形　地元のワインこそ美味しい

10月27日（土）、山形GHにて渋江朋博理事（山形市議会議員）の司会により講演会が開催された。会場には学員などが約100名。始めに元衆議院議員の遠藤武彦氏が「上杉鷹山政治の原点は、後継の治廣への〝伝国の辞〟の中で国家や人民を我私すべからずと伝授したこと」と文学部出身らしい品格ある〝エンタケ節〟で訴えた。

続いて中大の美人教授・原田喜美枝氏が「世界のワインと日本のワイン」と題し、詳細な資料に基づいて講演。その後はワイン産地の山形県民ならではの質問が殺到。中でもワインの税金・税率に関する問いについては、「詳細不詳につき後日の回答」となるほどの盛況となった。

懇親会では地元・高畠ワイン社長からお勧めのワイン数本、アサヒビール（株）の朝日町特産ワインの提供を受け乾杯、会場は大いにボルテージアップ。

最後は学事課の三浦氏より大学の近況について報告を受け、東北、そして山形から学生や学員がますます力を合わせ母校が発展することを祈念して講演会を終了した。

幹事　佐藤　信孝

埼玉　再建65周年記念総会を賑やかに開催

10月14日（日）、東天紅JACKで141名が出席し、再建65周年記念総会を盛大に開催した。

開会（石関副支部長）、鈴木支部長挨拶の後、全議案が承認され、記念事業の「六十五年のあゆみ（追録）」も披露した。

ご来賓の清水勇人さいたま市長、久野修慈理事長・学員会会長、大谷隼夫学員会副会長の挨拶、荒川俊行氏（父母連絡会）、開山憲一氏（信愛会）の紹介後、閉会の言葉（林副支部長）で終了した。

続く演奏会・懇親会は、「アンサンブル八重洲」の演奏、新谷元幾氏（大宮白門会）の開宴の辞、鈴木支部長挨拶、原大宮白門会会長による乾杯と進んだ。スピーチは沢辺飯能市長など。志田雄司氏（春日部白門会）からは来年度のお誘いがあった。

江野氏（東松山白門会）発声のエール交換、原会長のお礼と木川副支部長の言葉で閉宴となった。

副幹事長　大久保伸一

札幌　文化講演会・定時総会を開催

8月9日（木）、京王プラザホテル札幌で文化講演会・定時総会を開催し、大学本部から永井和之前総長・学長、学員会本部から吉田憲一事務局事務総長、金井重博副会長他、村上毅学事部秘書課長を迎え、和田支部長以下84名が出席した。

総会では、議案が全員異議なく承認され、続く懇親会ではご来賓の挨拶、そして新規入会者7名が自己紹介を行った。校歌・応援歌・惜別の歌の合唱では、全員が輪になって肩を組み、まるで大学時代さながらの雰囲気の中、学員の心も大学生そのもの……誰もが青春時代のただ中にいるような熱気に包まれた。

総会に先立ち、北海道経済センターで行われた講演会では、永井和之前総長・学長より「会社法の変遷と企業不祥事―オリンパス事件や東電問題との関連を中心に」と題した講演に合わせて180余名が熱心に聴講した。

幹事長　西原達之

東京渋谷区　定期総会・懇親会を開催　今先生に花束贈呈

9月5日（水）、来賓に学員会より中西美子副会長、大学より藤本義明常任理事をお迎えし、渋谷エクセルホテル東急で総会・懇親会を開催した。

総会は、山本等晨支部長が議長となり、全議案が満場一致で可決した。

続く懇親会では、山本支部長の挨拶の後、中西副会長より、渋谷支部は「教養」に満ち溢れ、気持ちが和むとのお言葉をいただき、藤本常任理事からは中大学生・学員のロンドン五輪活躍、本学の志願者状況などについてご説明があった。

また、本支部会員であり、図書館学の分野で草分け的な功績を残された今まで子名誉教授に、平成23年の秋の叙勲で瑞宝中綬章を受章されたお祝いの花束を贈呈。先生が「カワイ子ちゃん」だった当時は、女性ゆえに就職に苦労したこと、本学によって今回の受章につながったことなど、ユーモア溢れるご挨拶があった。

幹事長　池田　茂

新潟　「夏の元気会！」で蓮池薫学員がスピーチ

創立115年目を迎えた新潟支部は、総会年（隔年）以外の夏に開く定例会として、昨年度から「夏の元気会！」を開催。「白門会の絆で、ふるさと新潟を元気に！」を目的に、8月29日（水）、ホテルイタリア軒で約80名の学員が交流をはかった。

堀一支部長による支部会報、HP開設報告の後、樋口靖父母連絡会新潟支部長からの挨拶や、新潟中越支部の久保原昇副支部長、本間信彦幹事長を招き、支部間交流も。森邦雄副知事が出席したほか、塚田一郎参議院議員、渡辺惇夫県議会議員からの祝電披露など盛会の中、蓮池薫学員によるスピーチが行われた。

その中で、最も出席者の胸を打ったのが拉致被害者の北朝鮮での生活実態。「私が心から笑えるのは拉致被害者が全員、帰国できたときです」の言葉に、全員が拉致問題への協力を確認し合った。

幹事長　馬場伸行

兵庫　総会および学術講演会報告

9月30日（日）、ANAクラウンプラザホテル神戸で総会および学術講演会報告を開催した。ご来賓として、本部より吉田亮二常任理事、尾家亮学員会副会長をお迎えした。

学術講演会は、中條誠一経済学部教授を講師としてお迎えした。「通貨から見た世界の行方～台頭する人民元、日本はどう対抗すべきか～」と題する講演は日本が生き残る道は何かを考えさせられ、出席者からも非常に好評だった。

総会は大阪、京都、奈良、和歌山の支部や父母連絡会の参加者を入れると60名以上が出席。台風の影響で20名近くのキャンセルがあり開催自体が危ぶまれたが、初参加者の紹介やくじ引き大会がにぎやかに行われた。

学校関係者の皆様は新幹線が不通等、大変な目にあわれたこととお察しします。ありがとうございました。

幹事長　模　泰吉

鹿児島　定例の支部総会　学員の講話も開催

盛夏8月17日（金）、定例の鹿児島支部総会がホテル・レクストン鹿児島で開催された。来賓として、安田征史学員会副会長をはじめ10名の九州各支部支部長・副支部長・幹事長にご出席いただき、総勢82名の参加となった。

総会は、校歌斉唱で始まり、物故者への黙祷の後、井上順夫氏が支部長挨拶・支部活動報告を行った。支部長の発案で、本年より各界で活躍されている学員の講話の時間を設けた。

今回は、夫婦殺害の裁判員裁判で活躍された弁護士・新倉哲朗氏に「裁判員裁判制度の現状と課題」という演題で30分ほどお話いただいた。

懇親会では、景品100個以上の恒例の大抽選会で盛り上がった。

最後は、会場いっぱいに参加者全員が肩を組んで輪になり、応援歌・惜別の歌を斉唱、盛会裏のうちに終了した。

事務局　有村　浩子

支部だよりについて

発行サイクルの変更により、多数の支部総会報告や支部の活動報告が寄せられたため、各支部担当者の了解のもと、記事を大幅に割愛して掲載しました。ご理解とご協力に感謝します。なお、記事全文は、「時報オンライン」（ホームページ）に掲載してあります。あわせてご覧ください。

中央俳壇

水見　壽男　選

坂町の小樽高商多喜二の忌　久慈市　和城　弘志

（評）物語性の濃い句の内容である。旧制小樽高商は商科とは言え、校風自由闊達で文学青年を育てた素地があった。同世代に文学者の伊藤整、ホトトギス二代目主宰高濱年尾が居る。多喜二終焉の地は築地警察署で、この句を象徴的に押上げている。ゆるやかな諷詠の中に、疾風怒濤の人間像を浮彫りにする忌日句である。

長き夜や師系異にす朋と酌む　さいたま市　稲葉　峻山

（評）俳人仲間の解ぐれてゆく一席。俳人同志が宴席で語る内容とは、只管打坐俳句のみであろうか。それが肴であり、友愛の糊代でもある。夜長が、心の隙間を俳心で埋められて行く。

露天風呂湯けむり越しに山眠る　名古屋市　安井　俊夫

（評）存間に、〝いい景色のお句ですね〟と。露天風呂と言い湯けむりと言い、季題を主役の良い舞台装置である。眠る山の安穏の姿が垣間見られて、俳句の多様性と、その性の不思議さに取り込まれる一句だ。

枯菊の気ままを緩く括りけり　松戸市　久保田　雅久

煮凝りの金の鱗と真珠の眼　静岡市　梅原　久子

初霜や飛石踏めば石が啼く　さいたま市　松枝　勝一

ボロ市に古着の出店なほ残る　世田谷区　飯泉　善一郎

置き去りの尻尾跳ねゐる蜥蜴かな　川越市　荒畑　義雄

野地蔵の片頬を射る秋夕焼　深谷市　井上　燈女

子を叱る声あたたかき暮の秋　小田原市　井上　克彦

鎌倉や萩のこぼるる切通し　相模原市　宇都宮　安高

絶筆となる日あらむも日記買ふ　石岡市　酒匂川　孝治

鷺草や風の便りのありし日に　横浜市　伊達天

文芸誌漁る古書肆や初時雨　神戸市　片山　博善

山伏の法螺遠のきて蝉時雨　平塚市　小林　空山

老僧の影の長きや冬の寺　名古屋市　中島　幹夫

伊賀上野文学散歩秋の旅　岐阜市　末永　香

白秋忌地酒ゆっくり噛みにけり　小平市　鈴木　三光子

なだらかに丘つらなりて草紅葉　八王子市　滝沢　孝之

初場所のきれいどころや髪競ひ　千代田区　大西　むとつ

一新の入歯に任せ年忘　東大和市　板坂　壽一

追いかけて追いかけられて走馬灯　福生市　井戸　靖子

鰯雲三人の子の洗い物　所沢市　村重　光子

黄昏の磧に見るや月見草　広島市　松井　智子

秋寂ぶや朋と語らふ野天風呂　上田市　宮原　深山

学員ご家族、在学生と父母の投句も歓迎します。はがき1枚に1句、楷書のこと。3月号は2月15日（金）締切（消印有効）。あて先は学員会本部「中央俳壇」係。